

#7: 選ばれて聖となり、聖なる生活をして、<sup>2018/10/1-7</sup>  
聖なる神を表現し、聖なる都となる(レビ記結晶の学び二)

I. 過去の永遠において、私たちは聖くなるようにと、  
キリストの中で選ばれました。この時代において、  
私たちは聖化され、「その霊、聖なる方」としての  
キリストをもって浸透され、聖くなりつつあります。  
次の時代において未来の永遠にわたり、私たちは  
究極的に完成されて聖なる都となります：

エペソ1:4 すなわち、この方は、愛の中で、御前に聖く傷のない者になるようにと、世の基が置かれる前から、キリストの中で私たちを選び。

I テサロニケ5:23 そして平和の神ご自身が、あなたがたを徹底的に聖別し、あなたがたの霊と魂と体とを守って、私たちの主イエス・キリストの来臨の時に、完全で責められるところのない者にしてくださいように。

A) 「聖い」とは、聖別され、神へと分離されるだけでなく、また俗的であるあらゆるものと異なり、それから区別されていることでもあります。神だけがすべてのものと異なり、区別されています。ですから、彼は聖であり、聖は彼の性質です：

① 神が私たちを選んだのは、私たちが聖くなるためです。彼が私たちを聖とするのは、聖なる方であるご自身を私たちの存在の中へと分け与えて、私たちの全存在が彼の聖なる性質で充満され、浸透されることによります。私たち、神の選ばれた者が聖となるとは、神の神聖な性質にあずかり、私たちの全存在が神ご自身で充満されることです。

② これは単に罪のない完全や、罪のない純潔とは異なります。これは私たちの存在を、神ご自身のように神の性質と特性の中で聖とすることです。

B) 御父は、愛の中で、御前に聖く傷のない者になるようにと、世の基が置かれる前から、キリストの中で私たちを選びました：

① 神の選ばれた者は神ご自身だけで浸透されるべきであって、墮落した天然の人の要素、肉、自己、世的な事柄のような、何の異物も持っているべきではありません。このことは、傷がなく、神の聖なる性質以外の何の混合もなく、何の要素もないことです。

② 私たちがキリストの花嫁となるのは、自己の矯正によるのではなく、神で浸透されることによります。これが聖書で啓示されている聖、聖別です。

③ 召会は、言葉の中の水によって徹底的に洗われた後、聖化されます。それは有機的にキリストで浸透され、美しくされる方法においてであり、召会はキリストの栄光の召会、彼の聖なる花嫁となります。

エペソ5:27 またそれは、しみやしわや、そのようなものが何もなく、聖くて傷のない栄光の召会を、彼がご自身にささげるためです。

④ エペソ第1章4節で、「愛」は、神が彼の選ばれた者たちを愛する愛、また神の選ばれた者たちが神を愛する愛を指しています。この愛の中で、そ

のような愛の中で、神の選ばれた者たちは御前に聖く傷のない者となります：

a. まず、神が私たちを愛してくださいました。次に、この神聖な愛が私たちを動機づけて彼を愛し返させます(詩歌補充本240番、241番)。

b. そのような愛の状態と雰囲気の中で、私たちは神で浸透されて、神のように聖く傷のない者となります。

C) 聖であるとは、第一に神へと分離されることです。第二に、神によって占有されることです。第三に、神によって所有されることです。第四に、神で浸透され、神と一になることです。

D) 最終的に、このことの結果は新エルサレム、聖なる実体であり、それは神に属しており、神によって所有されており、神で浸透されており、神と一です。

啓21:2 私はまた聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾った花嫁のように整えられて、天から出て神から下って来るのを見た。

II. レビ記第18章から第20章は、神の聖なる民の聖なる生活についてであり、エペソ第4章17節から第5章14節と符合します。それは神の聖なる民に、古い人を脱ぎ捨て、新しい人を着るように、すなわち、神が聖であるように、聖である生活をして、彼を表現するようにと命じています：

A) エペソ第4章17節から32節に、三つの意義深い節があり、神聖な三一の神聖な分与が、召会生活のための聖なる生活をするための基礎であることを見せています：

① 一つ目は18節であり、神の命から遠ざけられることについて語っています。神の命は、彼の神聖な分与の中で、彼の神聖な豊富をもって彼の子供たちに供給するためです。

エペソ4:18 彼らは、理解することで暗くなり、彼らの中にある無知のゆえに、その心のかたくなさのゆえに、神の命から遠ざけられ。

② 二つ目は21節であり、イエスにあるあの実際について語っています。イエスにあるあの実際は、神の命を実行することであり、それはイエスが地上で生活していたとき、イエスにおいて現されたものです。それは四福音書に記録されているように、イエスの生涯の真実な状態です：

21 もしあなたがたが真に彼に聞き、そして彼の中で、イエスにあるあの実際にしたがって教えられているのであれば。

a. イエスの日常生活には、四福音書に記録されているように、とても真実なものがあり、その真実なものは実際化され実行された神の神聖な命であり、イエスの人性にあるあの実際となりました。

b. イエスにあるこの実際は、キリストの人性における敬虔な生活を、彼の神聖な分与の中で信者たちに注入するためです。

③ 三つ目は30節であり、神の聖霊を悲しませない

よう私たちに警告しています。この方の中で、私たちは証印を押されて、贖いの日へと至るのです：

30 また、神の聖霊を悲しませてはいけません。この方の中で、あなたがたは証印を押されて、贖いの日へと至るのです。

**a.** 証印を押す霊はまた証印のインクです。この証印のインクの内容、要素、本質は神聖な命プラス、イエスの実際的な人性です。この証印のインクは永遠に湿っており、三一の神をもって私たちに浸透し、染み込み、浸潤します。

**b.** 神の命、イエスにあるあの実際、聖霊の証印は、神聖な分与の三つの源であり、聖なる神を表現する私たちの聖なる生活のためです：

**(1)** 御父の命は、私たちの日常生活の中で真実とならなければなりません。その真実はイエスにあるあの実際です。御父の命を実行することであるこの真実は、証印のインク、すなわち聖霊となります。

**(2)** 証印のインクは証印を押しているとき、イエスの日常生活の実行における神聖な命をもって私たちに浸透し、染み込み、浸潤しており、私たちがイエスの生活(すなわち御父の命を実行すること)の「コピー」とします。

B) イスラエル人がかつてエジプト人の間で生活していましたが、彼らのように生活しないことは、信者たちが以前の古い生活の方法において、古い人を脱ぎ捨てるべきであることを表徴します。

エペソ4:22 あなたがたは、以前の生活様式において、あの欺きの情欲によって腐敗している古い人を、脱ぎ捨ててしまったのです。

C) イスラエル人がもたらされた地で、カナン人のように生活しないことは、信者たちが救われた後、この世の人々の生活や行動に同形化されるべきではないことを表徴します。

エペソ4:23 そして、あなたがたの思いの霊の中で新しくされ、

D) イスラエル人が神の聖にしたがって聖なる生活をすることは、信者たちがあの実際の義と聖の中で、神にしたがって創造された、新しい人を着るべきであることを表徴します。

エペソ4:24 また、あの実際の義と聖の中で、神にしたがって創造された、新しい人を着たのです。

E) 「その地は汚れてしまったので、私はその罪科のゆえにそれを罰し、地はその住民を吐き出したのである」(レビ18:25)：

**①** 良き地は、すべてを含むキリストを表徴し、神の民の生存と生活のための供給であり、また彼らの享受のためでもあります。

**②** 良き地が汚れた聖でない民を吐き出すことが表徴するのは、すべてを含むキリストが、私たちの住まい、また私たちが享受のために必要とするすべてであっても、もし私たちが彼との関係において正常でないなら、彼は私たちをご自身から吐き出し、

もはや私たちに彼を享受させないということです。

啓3:16 そのように、あなたはなまぬるくて、熱くも冷たくもないので、私はあなたを私の口から吐き出そうとしている。

F) 神が聖であるので、聖でなければならないということは、神の聖にしたがって歩き、聖なる生活をすることを表徴します。

G) レビ記第19章5節と6節は平安のささげ物を述べており、これが示しているのは、第18章から第20章で描写されているような神の聖なる民の聖なる生活の中では、神の聖なる民が平安の中で、交わり、交流、相互の享受を持つことがとても重要であるということです：

**①** 信者たちがキリストを平安のささげ物として享受することは、新鮮に保たれるべきです。互いの、また神との古びた交わりは受け入れられず、神にとって忌むべきものです。：

**②** 古びた交わりにあずかる者は、神の聖なるものを軽んじたという罪科を負い、神の民の間の交わりを失います。

H) 「あなたの家畜を違った種類と交配させてはならない。あなたの畑に二種類の種をまいてはならない。また二種類の材料で作った衣を身に着けてはならない」(レビ19:19)：

**①** 何の混合も許されなかったという事実が意味するのは、すべてがその種類にしたがっていて、いかなる種類の混合もないことを、神が願っているということです。

**②** 混合なしに家畜を交配させることは、命を混合させてはならないことを表徴します。神の命によって生きる者は、肉によって生きてはなりません。

**③** 混合なしに種をまくことは、言葉の務めが混合してはならないことを表徴します。供給される神の言葉は、この世の言葉と混合するべきではありません。

Ⅱコリント2:17 私たちは多くの者のように、利益のために神の言に混ぜ物をするようなことをしないで、むしろ誠実な者として、また神からの者として、神の御前でキリストにあって神の言を語っているのです。

**④** 材料を混合することなく衣を作ることは、私たちの行動が混合してはならないことを表徴します。新約の命の中で生きる者は、旧約の規定によって生きるべきではありません。主に属する者は、異邦人の風習にしたがって生きるべきではありません。

Ⅲ. 私たちは聖なる生活、自分の祭司職にふさわしい生活をする必要があります。私たちは、日ごとに完全なキリストと接触し、彼を享受し、経験することによってはじめて、そのような人になることができます。彼は私たちを完全に装備し、完全にし、正しく均衡がとられるようになります。そのとき私たちは、新約の時代に祭司として仕えるのに必要とするすべての資格を持ちます。

## 経験①: 神聖な三一の神聖な分与の下で 学校生活を送る

エペソ人への手紙第4章17節から32節に、三つの意義深い節があり、神聖な三一の神聖な分与を見せています。私たちはこの三つの節から、神聖な三一の神聖な分与が、私たちの日常生活の基礎であることを見ます。一つ目は18節であり、神の命から遠ざけられることを述べています。神聖な命から遠ざけられ、分離されるのは、厳粛な事柄です。神の命は、彼の神聖な分与の中で、彼の豊富をもって彼の子供たちに供給するためです。

神聖な分与と関係がある二つ目の節は、21節です。それはイエスにあるあの実際について語っています。イエスにあるあの実際は、神の命を実行すること、すなわち、イエスが地上で生活していたとき、イエスにおいて現された神の命を実行することです。イエスの日常生活には、四福音書に記録されているように、とても真実なものがあり、その真実なものは実際化され実行された神の神聖な命であり、イエスの人性にあるあの実際となりました。イエスにあるこの実際は、キリストの人性における敬虔な生活を信者たちに注入するためです。

神聖な分与に関する三つ目の節は30節であり、聖霊を悲しませないよう私たちに警告しています。この方の中で、私たちは証印を押されました。この霊は、証印を押す霊です。彼は証印の「インク」でさえあって、私たちはみなそれによって押されました。証印のインクの内容、要素、本質は神聖な命プラス、イエスの実際的な人性です。この証印のインクは決して乾くことがあり得ません。それは永遠に湿っています。それは湿っているとき、三一の神をもって私たちに浸透し、染み込み、浸潤します。

### 中高生編

神聖な三一の神聖な分与が、あなたの日常生活の基礎です。神聖な分与に関して、以下の三つの御言葉が重要です。

エペソ 4:18 彼らは、理解することで暗くなり、彼らの中にある無知のゆえに、その心のかたくなさのゆえに、神の命から遠ざけられ。

FN「神の命」:これは神の非受造の、永遠の命です。人は創造の時、それを持っていませんでした。人は創造された後、創造された人の命をもって、命の木の前に置かれました。それは、人が非受造の神聖な命を受けするためでした。ところが人は、思いのむなしさの中へと落ち込み、その理解力が暗くなってしまいました。今や、そのような堕落した状態の中で、人は神の命に触れることができません。それは、人が悔い改めて(思いを神に向けて)主イエスを信じ、神の永遠の命を受けはじめて可能です。

あなたは異邦人の風習にしたがって、あるいは日本人の文化の習わしにしたがって、むなししい事柄、例えばグループを作りグループ外の人を受け入れないこと、転校生を受け入れないこと、スマホに占有されることなどにしたがって、学校生活を送ってはいけません。こ

のようなむなししいことに占有されると、理解力が暗くなり、神の命から遠ざけられます。

祈り:「おお主イエスよ、私は異邦人のように虚栄や高ぶりなどの空しい事柄に占有されてはいけません。空しい事柄に捕らわれると、理解力が暗くなってしまい、神の命から遠ざけられてしまいます。いつも霊に戻り、神聖な分与の下で学校生活を送れますように!アーメン!」

21 もしあなたがたが真に彼に聞き、そして彼の中で、イエスにあるあの実際にしたがって教えられているのであれば、

FN「実際はイエスの中にある」:四福音書に記録されているような、イエスの生活の実際の状態を言います。諸国民、堕落した民の不敬虔な歩みには、むなしさがあります。しかしイエスの敬虔な生活には真理、実際があります。イエスは神の中で、神と共に、神のために、すべてのことを行なう生活をされました。神は彼の生活の中におられ、彼は神と一つでした。これが「実際はイエスの中にある」ことの意味です。命としてのキリストをもって再生され、彼の中で教えられている、私たち信者は、実際はイエスの中にあるので、彼から学びます。

諸国民、堕落した民の不敬虔な歩みには、むなしさがあり、イエスの敬虔な生活には真理、実際があります。このイエスは今、あなたの霊の中に生きていますので、霊を活用し、福音書の中に描写されたイエスの実際を祈り読みして、享受してください。そうすればあなたは内側でイエスから学ぶことができます。例えばあなたの内側で嫉妬心が沸いてきたら、あなたは次のように祈ることができます、「おお主イエスよ、私はむなししい嫉妬によって動機付けられ、行動することをしたくありません。自分の嫉妬の罪を告白し、主に戻ります。イエスの生活の中に見る実際にしたがって学校生活を送れるよう助けてください。」

30 また、神の聖霊を悲しませてはいけません。この方の中で、あなたがたは証印を押されて、贖いの日へと至るのです。

FN「聖霊を悲しませる」:彼を不愉快にさせることです。聖霊は、私たちの中に永遠に住んでおられ、決して私たちが離れ去ることはありません。ですから、私たちが彼にしたがって歩まない時、すなわち、日常の歩みの詳細の中で、恵みと実際の原則にしたがって生きない時、彼は悲しまれます。

あなたの内側には聖霊が住んでいます。あなたが聖霊に従うとき、この聖霊はインクのように湿っており、あなたの内側で証印を押し続けます。しかしあなたが聖霊に従わないとき、聖霊はあなたの内側で悲しみます。例えば人を仲間はずれにすることは異邦人の風習であり、むなししいことであるのが分かっているにもかかわらず、そうしてしまうと聖霊は内側で悲しみます。

## 経験②: 祭司職にふさわしい聖なる生活を送る

レビ記第19章で、三つの混合の例証が与えられています。第一の例証は、混合なしに家畜を交配させることです。これは、命を混合させてはならないことを表徴します。神の命によって生きる者は、肉によって生き

てはなりません。一方で神の命によって生き、もう一方で肉によって生きることは混合です。そのような混合は神に受け入れられません。…19 節の第二の例証は、混合なしに種をまくことです。これは、言葉の務めが混合してはならないことを表徴します。供給される神の言葉は、この世の言葉と混合するべきではありません。…第三の例証は、混合することなく衣を作ることです。これは、私たちの行動が混合してはならないことを表徴します。新約の命の中で生きる者は、旧約の規定によって生きるべきではありません。主に属する者は、異邦人の風習にしたがって生きるべきではありません。もし私たちが、新約の祭司として、傷、欠陥を持つなら、これは祭司の奉仕を行なうという資格を奪うでしょう。

私たちはレビ記第 21 章を…学ぶなら、祭司として神に仕える資格を保つためにどのような人であるべきかについて、はっきりするでしょう。私たちは聖なる生活、自分の祭司職にふさわしい生活をする必要があります、自分自身を完全に装備し、完全にし、正しく均衡がとられる必要があります。私たちはどのようにしてこのような人になることができるでしょうか？私たちは、日ごとに完全なキリストと接触し、彼を享受し、経験することによってはじめて、そのような人になることができます。

### 在職青年編

OL: 混合なしに家畜を交配させることは、命を混合させてはならないことを表徴します。神の命によって生きる者は、肉によって生きてはなりません。

あなたは新約の福音の祭司です。あなたは毎日朝夕、献身を更新してください。そしてビジネス・ライフの中で肉に従ってではなく、霊に従って歩むべきです。福音の祭司は霊に従う命と肉に従う命を混合させてはいけません。例えば肉に従うと、正当でない理由で人を差別したり、人と不和になったりします。それは肉に従うとき、肉の中のサタンが働いて、人を憎ませたり、偏見を持たせたりするからです。しかし霊に従うとき、あなたは人々との平和を持ち、正しい人間関係を持つことができます。

OL: 混合なしに種をまくことは、言葉の務めが混合してはならないことを表徴します。供給される神の言葉は、この世の言葉と混合するべきではありません。

II コリント 2:17 私たちは多くの者のように、利益のために神の言に混ぜ物をするようなことをしないで、むしろ誠実な者として、また神からの者として、神の御前でキリストにあつて神の言を語っているのです。

FN「利益のために神の言に混ぜ物をする」：ギリシャ語は、売ったり、行商したりすることを意味します。もともと、低級な行商人が人をだまして、安物を高く売りつけることを言います。多くの人は、このような行商を行ない、自分の利益のために、神の言葉に混ぜ物をしました。

あなたは神の言葉を語る時、自分の利益のために語ったり、神の言葉にこの世の事柄を混ぜたりしてはいけません。すなわち自分の利益のために、御言葉を曲げて解釈してはいけません。例えば神の祝福を自分の個人的なビジネス上の繁栄のために用いてはいけません。神

の祝福はすべて、キリストのからだの建造のためです。OL: 材料を混合することなく衣を作することは、私たちの行動が混合してはならないことを表徴します。新約の命の中で生きる者は、旧約の規定によって生きるべきではありません。主に属する者は、異邦人の風習にしたがって生きるべきではありません。

社会に出ると、「嘘も方便」と言って、ある積極的な目的のために嘘をつくことを肯定する習わしがあります。このことわざは、「バカ正直」と対比しており、人間関係を保つための知恵の一種であると理解されています。しかし、聖書によると嘘と真実を混合してはいけません。それは「バカ正直」を推奨しているのでもありません。あなたはキリストを知恵として、「嘘はつかないが、よい人間関係を保つ」道を見出す必要があります。

祈り:「おお主イエスよ！私は新約の福音の祭司にふさわしい生活をすべきです。霊に従った命と肉に従った命を混合してはいけません。肉の中のサタンの声に従うのではなく、霊の中の主の語りかけに従います。また神の言葉にこの世の言葉を混ぜてはいけません。自分の利益のために神の言葉を用いることを恐れず。さらに異邦人の風習、あるいは日本の文化の習わしに従って、人を差別したり、知恵と嘘を混合したりしてもいけません。主イエスよ、私を純粋に保ち、祭司として成長し続けることができますように！主の恵みに頼ります。アーメン！」

### 霊と命—霊の中で主に向かって歌う 補114(中補 116)

- 1 れいもて主に向かつて、 うちより主にうたう。  
イエスにハレルヤうたい、 主とひとつに調和す。
- 2 としひさしくわれらは しゅう教、おもいにあり、  
また感じようのなかにて さがせども見いだせず。
- 3 いまやれいにもどつて、 キリストいのちとし、  
イエスをしよくすをまなび、 もがきより解放さる。
- 4 ハレルヤ、れいのいのち、 ハレルヤ、あたらしい。  
おもいをれいにつけて、 主の豊富を享受する。

### 1141 Experience of Christ – In Spirit

- 1 We will sing to the Lord with our spirit,  
We will sing to the Lord from within,  
We will sing hallelujah to Jesus;  
And be blent into oneness with Him.
- 2 We have been many years in religion,  
We have been many years in our mind,  
We have been many years in emotions,  
Always seeking, but never to find.
- 3 Now we're learning to turn to our spirit,  
Now we're learning to take Christ as life;  
Now we're learning to feed upon Jesus  
And be freed from all struggling and strife.
- 4 Hallelujah for life in the Spirit,  
Hallelujah for newness within.  
When we turn from our mind to our spirit,  
We enjoy all the riches of Him.